

1歳児をもつ母親の離乳に関連した育児情報ニーズ —ソーシャルメディアにおける発言の分析—

井田 歩美¹⁾、猪下 光²⁾

抄 録

本研究の目的は1歳児をもつ母親のソーシャルメディア上の発言内容を分析し、母親の離乳に関連した育児情報ニーズを明らかにすることである。対象は株式会社ベネッセコーポレーション『ウイメンズパーク』における「1歳児ママの部屋」での母親の発言 14,796 件であり、テキストマイニング法により分析を行った。結果、母親は離乳が進まないことに悩み、同じ年月齢の子どもをもつ母親の体験談を求めていることが明らかとなった。同時に、母親は断乳・卒乳の概念を理解したうえで発言し、子どもに適した方法を決定するための情報を求めている。

キーワード：母親、1歳児、離乳、ソーシャルメディア

I. 緒言

離乳とは、母乳またはミルク等の乳汁栄養から幼児食に移行する過程を言う。子どもの摂食機能は乳汁を吸うことから食物を咀嚼して飲み込むことへと発達し、摂取する食品は量や種類が多くなり献立や調理の形態も変化する¹⁾。同時に離乳期は母親にとって断乳の時期であり、乳房や子どもの反応に対して予測がつかず、不安を強く抱く²⁾。子育ての通過点であるが、ひとつの節目として新たなケア役割を取得する時期でもある³⁾。

20歳代から40歳代の母親世代のインターネット利用率は95%を超え⁴⁾、母親たちは育児上の不安や疑問を解決するために、ソーシャルメディアを利用し、情報収集や意見交換を行うようになってきている⁵⁻⁸⁾。

そこで、本研究では、1歳児をもつ母親がソーシャルメディア上で発言した内容を分析することで母親の離乳に関連した育児情報ニーズを明らかにし、具体的な支援の糸口とすることを目的とした。

II. 方法

1. 研究対象および期間

研究対象は、共同研究機関である株式会社ベネッセ

コーポレーションが管理運営しているWebサイト『ウイメンズパーク』の「1歳児ママの部屋」に書き込まれた2011年4月から2012年3月までの乳児をもつ母親の発言 14,796 件とした。

2. 分析方法

分析には、株式会社NTTデータ数理システム Text Mining Studio4.2 for Windowsを使用した。母親の発言タイトルから単語出現頻度をカウントし、1歳児の母親の育児情報ニーズを概観した。さらに、高頻度に出現した単語については発言内容の係り受け頻度解析を行うことで、得たい育児情報の詳細を分析し、ことばネットワークを作成した。

3. 倫理的配慮

本サイトは個人情報の保護に関して万全の体制を取っており、匿名化、守秘義務、利益不利益の回避、入会・退会の自由などに関する厳密な規約を定めている。またサイト上のデータを統計資料および研究企画開発に利用する場合においては、個人が特定できない資料とした上で、業務提携先等に提供する旨を明記している。入会時にはこれらの規約に同意した上で会員として登録され、さらにいつでも退会できることを保障している。本研究は岡山大学大学院保健学研究科看護学分野倫理審査委員会で承認を受けた上、実施した（承認番号：D11-12）。

III. 結果

本文中の「 」は単語として抽出されたもので、〔 〕ゴシック体で表記したものは発言内容の原文を表してい

1) Ayumi Ida

関西福祉大学看護学部

2) Hikari Inoshita

岡山大学大学院保健学研究科

る。

発言タイトルによる単語頻度解析を行った結果、〔名詞〕では「子ども」「保育園」「子」「息子」の順で頻度が高く、特に、「断乳」「離乳食」「おっぱい」「ご飯」「ミルク」「卒乳」といった子どもの栄養に関連した単語が多く抽出された（図1）。

子どもの栄養に関する単語の発言内容について係り受け頻度解析を行った結果、「断乳」では、「考える」「良い+?」「始める」といった単語が係り受けられており（図2）、原文を参照すると〔断乳を考えています〕〔断乳した方がよいのでしょうか〕〔断乳を始めて〇日になります〕といった内容であった。さらに、発言内容には「踏み切る」「決行」「決意」といった単語が出現した。

「離乳食」では、「食べる」「食べる+ない」「始める」「進

む」「進む+ない」（図3）が係り受けられており、原文を参照すると〔離乳食を食べません〕〔離乳食の食べさせ方について質問です〕〔離乳食が進まず悩んでいます〕といった内容であった。

「おっぱい」では「飲む」「あげる」「欲しい」（図4）が係り受けられており、原文を参照すると〔1歳10か月前でまだおっぱい飲んでます〕〔まだおっぱいをあげています〕〔おっぱいを欲しがります〕といった内容であった。

「ご飯」では、「食べる」「食べる+ない」が多く（図5）、原文を参照すると〔ご飯を食べてくれません〕といった内容が大部分を占めていた。

「ミルク」では、「飲む」「飲む+ない」「あげる」「やめる」といった単語が係り受けられており（図6）、原文を参

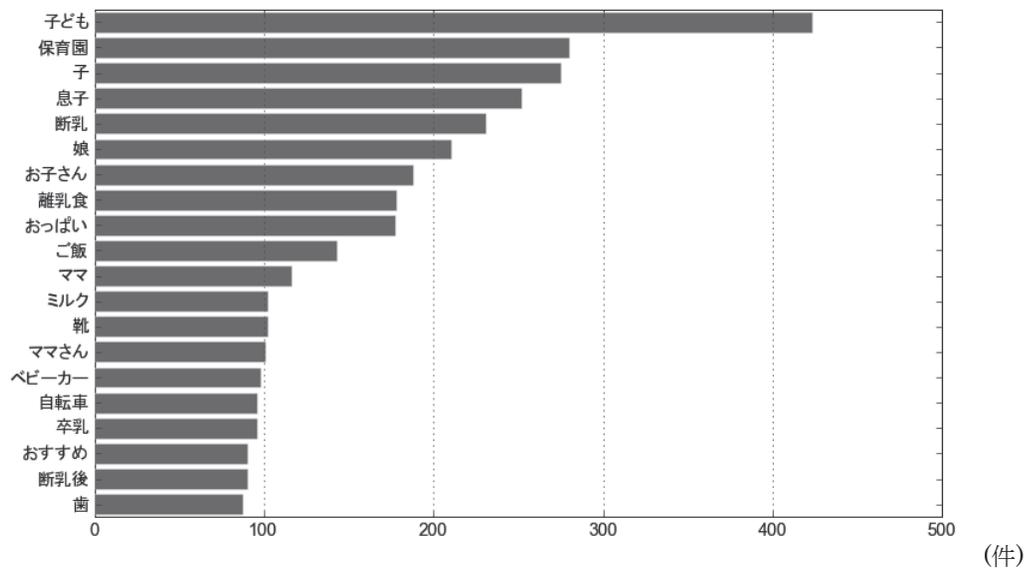


図1. 単語頻度解析（名詞）

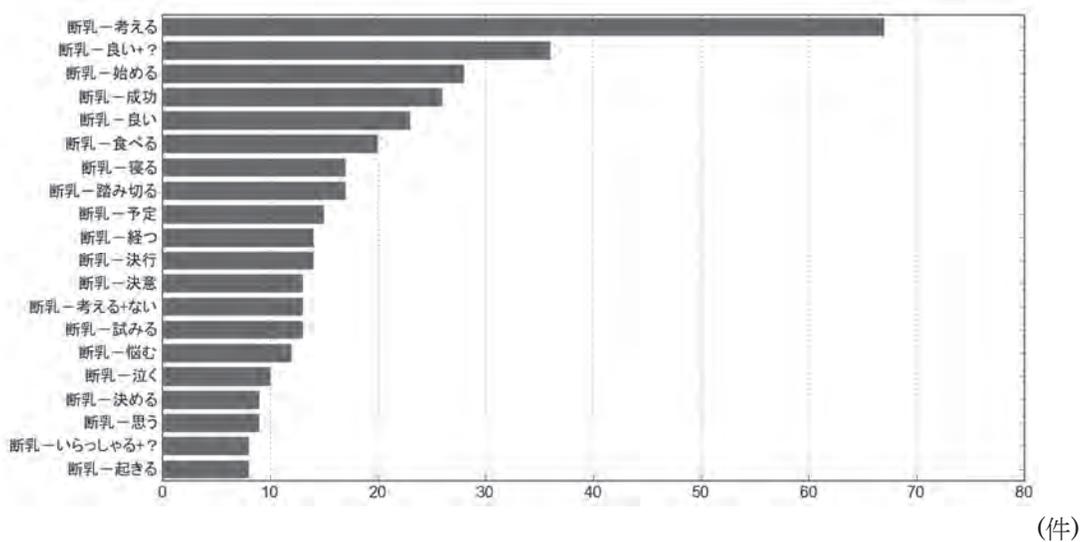
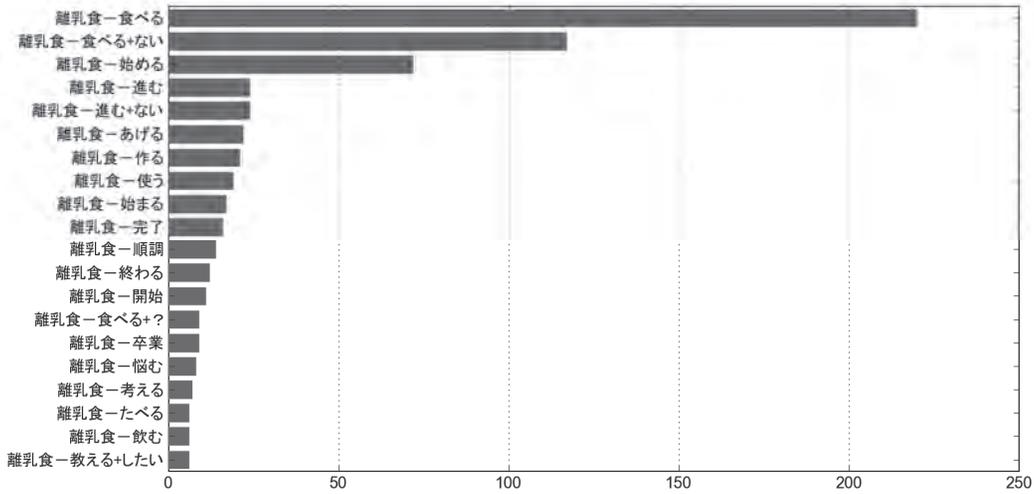


図2. 「断乳」の係り受け頻度解析

照すると「まだミルクを飲んでます」「ミルクも牛乳も飲みません」「ミルクをやめる時期」「ミルクがやめら

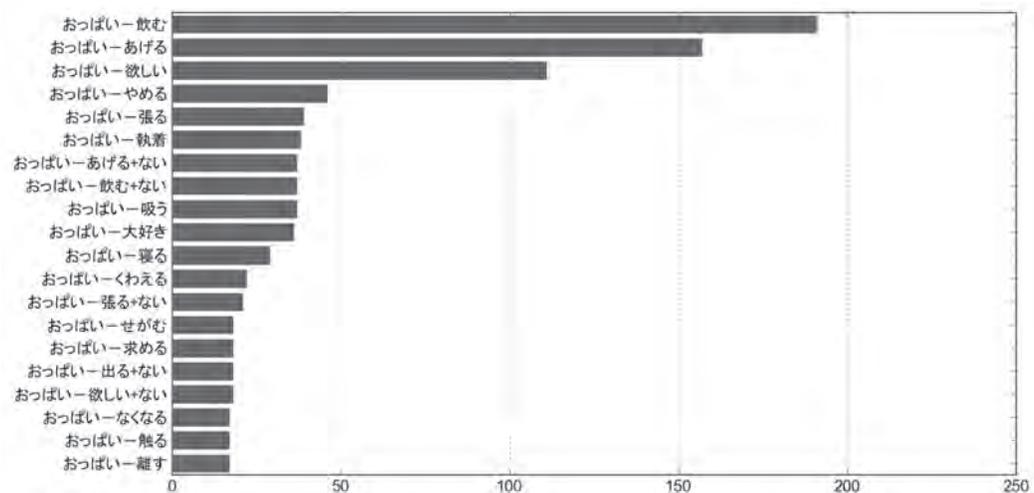
れない」といった内容であった。

「卒乳」には、「考える」「待つ」「目指す」「飲む」「良



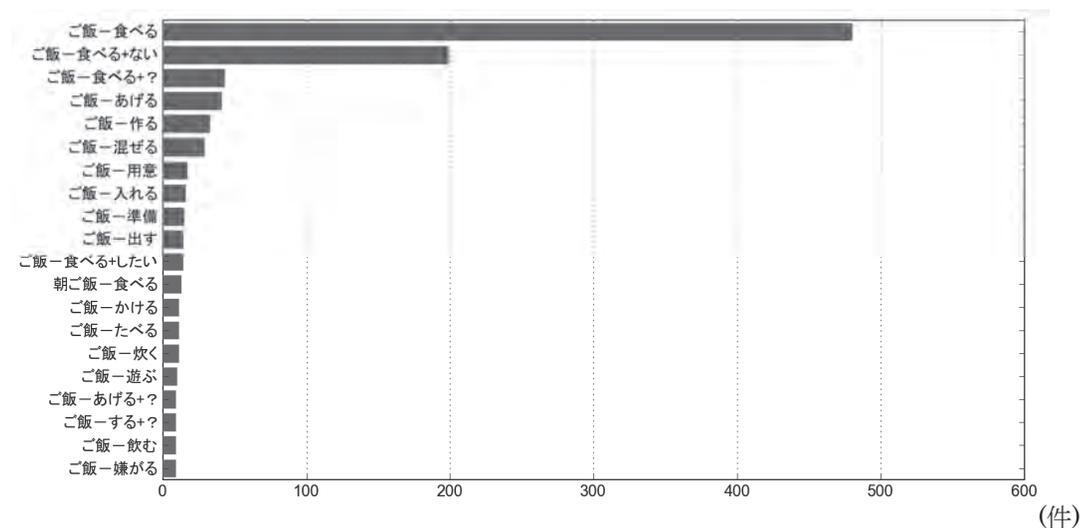
(件)

図3. 「離乳食」の係り受け頻度解析



(件)

図4. 「おっぱい」の係り受け頻度解析



(件)

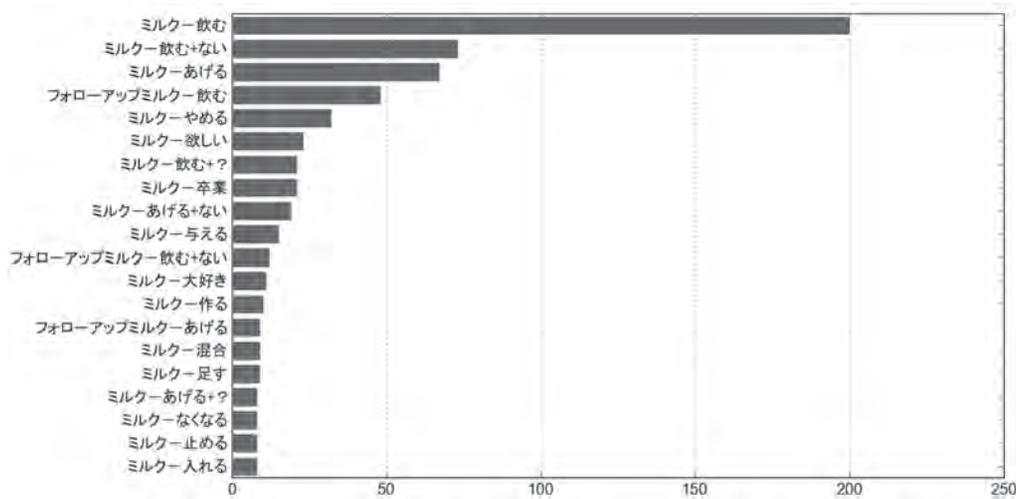
図5. 「ご飯」の係り受け頻度解析

い+?」といった単語が係り受けられており（図7）、原文を参照すると「卒乳について教えてください」「断乳か卒乳か悩んでいます」「卒乳したのに夜中に起きます」といった内容であった。

以上より、1歳児をもつ母親は子どもの「離乳食」が進み「ご飯」を十分に食べるようになると同時に、「断乳」もしくは「卒乳」できるといった離乳を目指した情報を求めていることが明らかとなった。

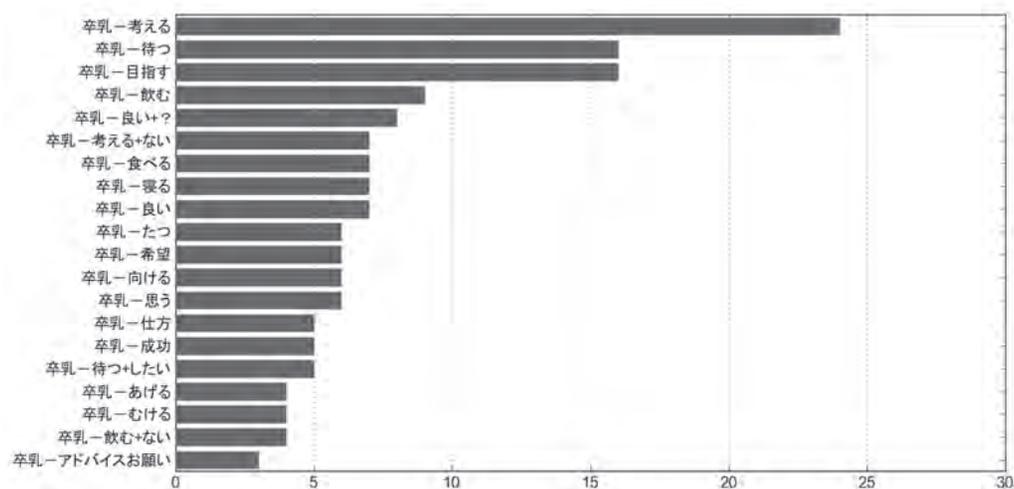
一方で、出現した単語をことばネットワークにより表すと、「教える+したい」には、「先輩ママさん」「ママさん」の単語が係り受けられており、子育ての先輩である母親に対し、何かを教えて欲しいと投げかける様子が

うかがえた。また、「いる+?」「いらっしゃる+?」には「子」「お子さん」「人」の単語が係り受けられており、このような人、子（子ども）はいるかと同じ経験をした人、わが子と同じような子どもをもつ母親からの情報を求めている。「皆さん」には「する+?」が係り受けられており、他の母親はどうするのかを尋ねている様子が明らかとなった。さらに「アドバイス」には「お願い」が係り受けられており、アドバイスを求める一方で、「辛口」には「ご遠慮+したい」が係り受けられており、辛口な意見は遠慮願いますと自己防御する母親の状況が明らかとなった（図8）。



(件)

図6. 「ミルク」の係り受け頻度解析



(件)

図7. 「卒乳」の係り受け頻度解析

れすること」と定義づけられた¹⁷⁾。本研究において、卒乳・断乳という言葉は併せて出現し、断乳には「踏み切る」「決行」「決意」といった母親の意思が強く反映された単語が続き、卒乳には「待つ」「目指す」といった子どもの意思を尊重するニュアンスを感じる単語が続いていた。したがって、母親はこれらの言葉の概念の違いを認識したうえで、使い分けて発言していることが明らかとなった。母親は自身と子どもの状況をふまえ、卒乳するのか断乳するのかの意思決定を行っていることが示唆された。

さらに、卒乳・断乳は母親にとって子どもと常に密着した状態からある程度の距離を持つという関係性の変化を経験するものであり、授乳ができなくなる寂しさを感じ、新たな母子関係の形成に向けての不安を抱く¹⁸⁾。医療者は、このような母親の心のゆらぎにも目を向け、支援する必要がある。

以上より、1歳児をもつ母親は、離乳に向けて生じる不安や疑問を解決するためにソーシャルメディアを活用している実態が明らかとなった。しかし、子どもには個性があり学習した通りに進めていったとしても、予定通りにすすまないこともある¹⁹⁾。また、生涯を通じた健康という長期的な視点からも離乳に関する育児支援は重要であり²⁰⁾、医療者による指導をもっと積極的に行う必要が考えられる。しかし、この時期は医療者の接点が少なくなる時期でもあり、どのような介入が効果的であるのかを明らかにすることが必要であると考えられる。近年ソーシャルメディアを利用した情報収集は日常化しており、今後は、情報の質を見極められるよう母親のヘルスリテラシーを高めるための方策が重要である。

V. 結語

ソーシャルメディア上の発言内容を分析した結果、1歳児をもつ母親の育児情報ニーズについて、以下のことが示唆された。

1. ソーシャルメディアを利用して得たい育児情報は、離乳に関するものが多く、子どもの成長発達に直結する栄養に対するものへの関心は高い。
2. 離乳が順調に進まないことに悩み、同じ年年齢の子どもをもつ母親の体験談を求めている。
3. 断乳・卒乳という概念を理解したうえで発言し、子どもに適した方法を決定するための情報を求めている。
4. ソーシャルメディアを利用した情報収集は日常化しており、今後はヘルスリテラシーを高めるための方

策が重要である。

謝辞

本研究にあたり、データ使用を快諾くださったウイメンズパーク管理者である株式会社ベネッセコーポレーション様に、心より感謝申し上げます。なお、本研究は、平成26～28年度科学研究費基盤研究(C)(課題番号26330353)の助成を受けて実施した研究の一部である。

文献

- 1) 中尾優子, 前田規子, 宮原春美:「卒乳」…乳離れ・離乳・断乳との概念関係に関する一考察…、長崎大学医学部保健学会紀要, 14 (2), 65-69, 2001.
- 2) 松永佳子: 母乳相談室での助産師の関わり - 断乳のケアに焦点を当てて -, 日本助産学会誌, 18 (1), 19-28, 2004.
- 3) 松永佳子: 新たな出発点となる断乳期の母親の変化, 日本赤十字広島看護大学紀要, 3, 95-102, 2003.
- 4) 総務省: 平成25年版 情報通信白書, 331, ぎょうせい, 東京, 2013.
- 5) ベネッセ教育総合研究所: 研究報告書 VOL.2 第1回乳幼児の親子のメディア活用調査報告書, 76-79, 株式会社ベネッセコーポレーション, 東京, 2014.
- 6) 井田歩美, 猪下光: 特集 看護研究におけるテキストマイニング(II) ソーシャルメディア上のビッグデータを分析して - 乳児をもつ母親の関心事, 看護研究, 46 (6), 543-551, 2013.
- 7) 井田歩美, 猪下光: 新生児をもつ母親の育児上の不安や疑問 - ソーシャルメディアにおける発言のテキストマイニングによる分析 -, 母性衛生, 56 (1), 56-65, 2015.
- 8) 井田歩美, 猪下光: 乳児をもつ母親の予防接種に関する疑問や不安 - ソーシャルメディアにおける発言のテキストマイニングによる分析 -, 母性衛生, 55 (2), 471-478, 2014.
- 9) 亀崎明子, 田中満由美, 尾崎亜希他: 乳幼児期の子どもをもつ母親への栄養指導と離乳食の実際, 山口県母性衛生学会雑誌, 23, 27-27, 2010.
- 10) 前掲 1)
- 11) 山本直子, 赤星衣美, 新川哲子他: 流通店舗での離乳に関する育児相談の現状, 保健学研究, 23 (2), 23-28, 2011.
- 12) 中田久恵, 村井文江, 江守陽子: 初めての育児をす

- る母親が離乳をとして母親役割を獲得していくプロセス－離乳後期における母親役割獲得の質的研究－, 母性衛生, 54 (1), 69-77, 2013.
- 13) 松原まなみ, 井上円, 田中千絵: 乳児を育てる母親が評価した授乳・離乳に関するリソースの有効性, 聖マリア学院大学紀要, 6, 17-25, 2015.
- 14) 前掲13)
- 15) 宝樹真理: 特集【お産・育児をとりまく状況の変化】インターネットと育児情報, 周産期医学, 32増刊号, 739-743, 2002.
- 16) 南部春生: 断乳(卒乳)の時期が母子の健康に及ぼす影響に関する研究(第2報), 少子化時代に対応した母子保健事業に関する研究 平成6年度厚生省心身障害研究, 197-201, 1995.
- 17) 柴田千鶴子, 藤永由美子, 大藤智佳他: 断乳ケアの実際, 日本助産学会誌, 12 (3), 104-107, 1999.
- 18) 前掲3)
- 19) 前掲11)
- 20) 前掲8)